

関西大学

東西学術研究所紀要

38

日中文化交渉史研究の将来……………	藤田高夫 (1)
— 日中学術交流史と比較中国学 —	
文政四年「清人漂着譚」……………	松浦章 (11)
— 紀州漂着中国商船 —	
『大乘起信論義記』研究 (五)……………	吾妻重二 (31)
	井上克人
	丹治昭義
現象学における比較研究のための一視点……………	三村尚彦 (53)
— 弁証法概念をめぐる —	
蘇東坡にとっての絵画と詩文……………	河村晃太郎 (65)
彙報……………	(83)
<hr/>	
真言五祖像の修復と嵯峨天皇……………	西本昌弘 (1)
— 左大将公宛て 空海書状の検討を中心に —	
ケムブリッジ大学図書館所蔵 イーリ小修道院領荘園裁判記録……………	朝治啓三 (25)
18世紀後半英領インドにおける 地図作製事業とレネル……………	野間晴雄 (37)
— 「帝国」と地図のポリティックス (1) —	
魔女の手に渡った <i>Ancrene Wisse</i> ……………	和田葉子 (67)
London, British Library, MS. Cotton Vitellius F viiの所有者についての一考察	
李之藻・傅汎際同譯『寰有詮』序説……………	橋本敬造 (79)
真諦三蔵の著作の特徴……………	船山徹 (97)
— 中印文化交渉の例として	
研究題目一覧 (平成15～16年度)・研究員の研究概要……………	(123)

平成十七年四月

関西大学東西学術研究所

編集後記

関西大学の東西学術研究所というのは、私にとっては憧れの機関であった。何か凄いことをしている所だというイメージが、学部生の頃からあった。それは、たぶんまだ見ることの出来ない重要なことについて、正確にいち早く調査し、研究し、紹介しているという、情報の凄さであったと思う。

早いこと、貴重であること、正確であることは、何においても重要であるが、それが出来るこの東西学術研究所は全国発信できる、そして今や、世界に発信できる研究所となっている。

HPも刷新され見やすくなっている。中でも出版物として、一、研究所叢刊 二、訳注シリーズ 三、資料集刊 四、索引シリーズ 五、国際共同研究シリーズ 六、その他。に分けての紹介は圧巻である。紹介されるものの重みが伝わってくる。たとえば、「その他」の中には、壺井義正編著『関西大学泊園文庫蔵書書目』などがある。先に私が「凄い」と感じた、「四、資料集刊」には、『湖北秋収暴動経過の報告』とか『中国八路军行軍記』など五種の中国共産党史」の資料が入っているのである。

こういう成果は、個人の営為としてなされる部分が多いけれど、それでもここでは共同研究という形でなされた成果もあろう。その共同研究は、多くは定期的な時期におこなわれる研究発表を通じて発信され、検証される。これらが元となって、『紀要』となる。今、第三十八輯の『紀要』に発表される論文題目を見ても、実に洋の東西に渡り、問題も多様化して、力作が並んでいる。学術の繁栄を感じざるをえない。

しかし、成果としての書籍の刊行ばかりに目が行き、『紀要』に載せられた論文のことはあまり宣伝されていない。単純に言って、『紀要』の公開が忘れられてはいないだろうか。HPにはその欄がない。すでに第三十八輯を数える、

東西学術研究所の中心となってきた『紀要』を、より重視したいものと思った。第三十八輯には、研究員から訳注を含む論文九本、客員研究員からの論文一本、準研究員からの論文一本と、合計十一本の論文が収録されている。研究班も五つの班それぞれから一本以上が出された。

ご寄稿くださった先生方にまず感謝申し上げます。また、多忙の中、校正などの編集業務にご尽力いただいた各研究班の編集委員、西本昌弘先生、野間晴雄先生、沈国威先生、三村尚彦先生に感謝したい。ただ、蛇足を加えるならば、研究員の先生方には、出来ることなら、もう少し期日を守ってくださいをお願いしておこう。

期日を守らぬ我侘な我々に対して、少しも嫌な顔をせずニコニコとして、本誌の出版を陰で支えてくださった事務室の皆様は、心からお礼申し上げます。

この号は、藤善眞澄所長から橋本征治第二十四代所長に代わる平成十七年四月一日付で発行される。

(秋野 脩二)

平成十七年四月一日発行

編集者

関西大学東西学術研究所

所長 橋本 征治

印刷者

株式会社 遊文舎

〒五六四一八六八〇

大阪府吹田市山手町三丁目三番三五号

発行 © 関西大学東西学術研究所

電話〇六一六三三六八一―一七六番

FAX〇六一六三三三九一七七二三番

BULLETIN OF THE INSTITUTE OF ORIENTAL
AND
OCCIDENTAL STUDIES, KANSAI UNIVERSITY

No. 38

APRIL 2005

CONTENTS

- A Review of Academic Exchange between Japan and China Takao Fujita (1)
Materials Concerning the Chinese Ships Cast Away
on the Coast of Wakayama Prefecture in 1821 Akira Matsuura (11)
A Study of Fa Tsang's "Commentary on the Discourse on the
Awakening of Faith in the Mahayana" (5) Jūji Azuma,
Katsuhito Inoue, Teruyoshi Tanji (31)
On the Concept of Dialectic: Naohiko Mimura (53)
A Perspective for the Comparative Study in Phenomenology
On Su Dong-po's (蘇東坡) Art and Literature Kotaro Kawamura (65)
Miscellanies (83)
-
- Restoration of the Portraits of the Five Patriarchs
and Emperor Saga Masahiro Nishimoto
—Focusing on Kukai's Letter Addressed to the Left Chief of the Guards (1)
Court Rolls of Swafham Priory Manor of Ely,
kept in Cambridge University Library Keizo Asaji (25)
Surveying and Mapmaking by James Rennell in the late 18th Century
in British India: Empire and Politics of Maps (1) Haruo Noma (37)
Ancrene Wisse: possessed by a witch? Yoko Wada (67)
—a note on the ownership of London, British Library, MS. Cotton Vitellius F vii
Aristotelian Cosmology and Furtado's *Huan You Quan* Keizo Hashimoto (79)
The Characteristics of the Works of Zhendi (Paramārtha) Toru Funayama (97)
—An Example of the Cultural Interactions between China and India
Summary of the Research, 2003 ~ 2004 (123)
-

EDITED BY
THE INSTITUTE OF ORIENTAL AND
OCCIDENTAL STUDIES
KANSAI UNIVERSITY, OSAKA